

# 兵庫県におけるテングチョウ2化の記録

木村三郎

## ① はじめに

従来テングチョウ *Libythea celtis* は日本では年1化とされていたが、1958年秋に奄美大島で2化が発生していることが久保邦照氏<sup>1)</sup> によって確認された。

その後1971年に長野県諏訪市において青沼貞雄氏<sup>2)</sup> が8月に2化目が発生しているのを発表された。さらに1977年にも大阪府能勢地方にも発生しているのが浜祥明氏<sup>3)</sup> により確認された。

そののちも沖縄八重山や本州の大阪府高槻市、京都府京都市、群馬県などで相つぎ2化目を確認されたとの報告がある。

当地方においても夢前町菅生潤別車にて2化目が、野外・飼育共に確認された。

なお本稿を草するにあたり、引用文献中の赤山敦夫氏<sup>4)</sup> と浜祥明氏<sup>3)</sup> の作におうところが多く厚くお礼申し上げます。

## ② 飼育（野外・室内）

下記の図1のように1化目は鉢植したエノキに4月12日に産卵させ飼育したところ、5月1日にう化したばかりの幼虫が多数確認出来、一瞬おどろいた。しかしその後すぐ4月22日孵化を確認した日あわてて仕事に出たのを思いだし、この時別の♀蝶が産卵したものとされた。

おかげで1化目の2つのパターンによる飼育データがそろったわけである。なお当地方におけるエノキの芽ぶきは4月20日頃から幼虫もこれに合せ孵化するようだ。

2化目の産卵母蝶は1981年6月7日頃より羽化しはじめた個体どうしの交尾により一部分の♀蝶がエノキに産卵し始めたのを6月16日に確認し野外・室内で比較飼育したものである。なお産卵したエノキはこの5月に倉庫を建てる時枝を切りはらったもので産卵当時2回目の新芽がたくさん出ている時であった。

(図 1)

	産卵日	ふ化日	蛹化日	羽化日	産卵から羽化までの日数
第1化1980年屋外	4月12日	4月22日	5月22日	6月1日☆	49日間
1980年屋外	4月22日	5月1日	5月25日	6月3日☆	42日間
第2化1981年室内	6月16日	6月19日	7月3日	7月11日♀	25日間
1981年屋外	6月16日	6月19日	7月4日	7月12日☆	26日間

## ③ 考察

1化目の成長スピードと2化目の成長スピードの違いであるが当然ながら温度+日長の違いであるものと思われる。

卵の期間は1化目を生ずるものが10日間、2化目を生ずるものが3日間というふうに関のとおりである。

標本や成虫において1化目と2化目での斑紋の違いは少し差があると報告されているが今回2化目の標本個体が12頭しかなく、所持している1化の標本との比較では個体変異の幅が広く判定はむずかしい。

県内において1化目の成虫の出現するのは5月下旬から6月中旬にかけてで、平地では7月初旬に夏眠するものと思われる。

この時期交尾している個体は観察されなかったが5月下旬から6月初旬にかけて羽化した成虫のうちごく一部分のものだけが2化目の親になるものと思われる。

11月5日現在室内でヒオドシチョウ、キチョウといっしょに2化目のテングチョウも越冬させている。

## ④ おわりに

以上報告するにあたり広畑政己氏に文献や助言をいただいたことを感謝いたします。

### <参考文献>

- 1) 久保邦照 (1958) 奄美大島の蝶類数種について、SATSUMA 7(3): 14—18
- 2) 青沼貞雄 (1971) テングチョウの第2化発生について New·Ent. 20: 7—12
- 3) 浜 祥明 (1977) テングチョウの化性について Crude No.15: 4—6
- 4) 赤山敦夫 (1979) テングチョウの化性について Crude No.19: 5—7
- 5) (福田晴夫他(1972) 原色日本昆虫生態図鑑(Ⅲ) チョウ編・保育社、大阪

(S.03: Saburo Kimura 飾磨郡夢前町)